

日本在宅 医学 会誌

Vol.16 No.2

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言 「質・量を担保した在宅医療の面展開」における本学会の役割について	前田 憲志	1
○特集 「小児在宅医療」(責任編集 前田 浩利)		
小児在宅医療の現状と課題	前田 浩利	5
小児等在宅医療連携拠点事業から見た小児在宅医療の現状	中村 知夫	13
NICUから在宅医療への移行—特に人工呼吸器装着患者に関して—	森脇 浩一, 田村 正徳	21
小児専門病院における在宅医療支援の取り組み	富田 直	27
在宅重症心身障害児問題—入所施設での経験から—	松葉佐 正	41
地域包括ケア 小児在宅医療—小児救急医療における小児在宅医療の位置づけ—	梅原 実	51
障害児に対する福祉サービスについて(重症児を主眼に)	又村あおい	61
小児在宅医療に必要な手技—在宅医療実技講習会の試みと意義—	江原 伯陽	79
平成26年診療報酬改定と小児在宅医療	大山 昇一	83
小児在宅医療における家族ケア—親・きょうだい・家族であることを支える—	奈良間美保	95
小児在宅療養における地域が多職種連携と訪問看護ステーション間の協働に対する取り組み	田中 道子	103
査読者一覧		109
日本在宅医学会雑誌投稿規定		110
投稿承諾書		111
連絡票		112
編集後記		113

「質・量を担保した在宅医療の面展開」 における本学会の役割について

日本在宅医学会 代表理事 前田 憲志

2013年には、「地域医療再生基金」を活用して、全国各地域で「市町村単位で地域包括ケアを展開するための推進事業」が実施されており、これらの事業の成果を踏まえて、「地域包括ケア」が全国的に各自治体単位で実施されることとなっています。「在宅医療」は、その中核機能として重要な役割を担うことはご承知の通りです。制度として「在宅医療」が全国的に展開されるには、「各地区の医師会員が広く在宅医療に参加される制度作り」が不可欠であります。そのためには、「診療時間中の緊急往診」や「夜間・休日」等の地域における支援体制の整備が不可欠となります。本学会としては、各地域において当学会員が指導者として地方自治体や地区医師会等との連携のもとに、支援体制の整備を進める事が望ましいと考えております。同時に、在宅医療が広く面展開される場合には「質」の担保が重要な課題です。まず、「安心・安全の確保」については、「患者ご本人・ご家族の安心・安全」のみならず、「医療従事者や介護従事者」の安心・安全の担保も重要な課題であります。さらに、「在宅医療」は個々の医療・介護チームによって運営されるので、「透明性確保」のための第三者機能の整備も重要な課題であります。これらの課題に対応すべく、名古屋市においては、「名古屋市医師会」が中心となって、「在宅療養支援アセスメント方式」が開始され、全市で数カ所の「在宅療養支援アセスメント病院」が発足し、在宅医の要請に応じて、要請項目の評価、在宅診療における指導等が開始されています。更に、急性期病院から在宅医療へ移行する場合も、アセスメント病院を経由することで、主治医の在宅医療に対する負担を軽減する支援体制が始まりつつあります。また、「在宅医療・介護」は「支える医療の分野」であり、今後大きく成長しなければならない課題を多く含んでいます。その課題解決のためには、現在、行われている在宅医療を集積・分類・整理し、治療の均てん化や改良点の発信に役立てることが、「支える医療」の進歩にとって不可欠であります。この具体的な取り組みとして、「アセスメント病院」でアセスメントを受けられた症例については、同意を得て、匿名化したデータの蓄積が開始され、データベース構築への第一歩が始まりつつあります。「支える医療」の分野は「高齢者等の脆弱性の医療」に密接に関連するものであり、今後、益々大きく成長する分野であります。また、基礎科学分野でも脆弱性に関する新たな進歩が見られてきており、将来の「新しい創薬」や「医療機器」の開発にもつながる事が期待されます。現状では「高齢者等の脆弱性治療」を適応疾患とする薬剤はまだ少ないのですが、既存の薬剤を用いて、有効な治療効果の見られる例が少しずつ報告されてきています。これらの臨床効果を基礎研究に発信し、効果発現機序を解明し、新しい創薬へ繋げる活動も将来に向けて推進して行く必要があります。高齢者は脆弱性を有するのが当然だから「支える対象」以外に選択肢はない、と諦めるべきではなく、積極的な脆弱性の治療も重要と考えています。介護保険費用の著しい増加を考えても、早期からの高齢者の脆弱性の治療により、社会参画の方向を推進することも今後の当学会の課題であります。

当学会のメンバーは、前述の未知の広大な課題に向かって、地域の「在宅医療」「地域包括ケア」のリーダーとして地域を支援されるとともに、「支える医療・医学」の課題を抽出・発信し、基礎分野やアカデミアと協力・推進することが求められます。皆様方のご尽力・ご協力をお願い申し上げます。